

群馬県立利根実業高等学校 学校評価一覧表①

(令和4年度版)

(様式1)

評価対象	羅 針 盤		方 策
	評価項目	具体的数値項目	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行い、生徒のニーズに対応した教育を実践していますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	農業系はくくり募集での入学のため、新年度からアンケートや個人面談等を実施し、きめ細かい指導を繰り返し行うことにより、希望するコースで目標をしっかりと定めて学校生活が送れるようにします。
	2 生徒の主体的な学びを引き出す特色ある教育活動を行っていますか。	② 学系、コースの教育活動（ポランティア活動や校外清掃活動などの奉仕作業を含む）に対して、主体的に取り組みと自己評価する生徒が80%以上である。	地域社会の行事に積極的に参加させ、地域とかわかることにより、課題を見つけ出させ、解決方法を考えさせ、解決に結びつけます。
	3 地元企業や地域と連携し学校外実習や体験学習を積極的に実施していますか。	③ 利根実業デジタルシステムや、長期就業体験、小中学校との交流活動・出前授業などに満足感を持つ生徒が80%以上である。	地域との連携や学校外実習や農業実習を行います。また、地域の幼小中学校や特別支援学校等と交流を深め、德育教育への取り組みや言語活動を意図的・計画的に取り入れていきます。
	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 授業が理解でき、学習に対する満足感・達成感を持つ生徒が80%以上である。	多くの普通科科目において、習熟度別学習、少人数学習、選択学習を導入し、生徒一人ひとりに指導の手が入りやすい授業を行います。また、授業展開で生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面を多く設定します。
	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 基礎力診断テスト実施前や定期テスト1週間前からの計画的なテスト勉強に取り組む生徒が50%以上である。	基礎力診断テストの結果を用いて組織的に学習ゼミを実施したり、定期テスト1週間前には部活動を停止して勉強に集中できるように、工夫して学習習慣や態度を養います。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な生徒指導を行っていますか。	⑥ 問題行動で指導される生徒や、不登校、転学者、退学者が前年度比の50%以下である。	週1回の学年会議、月1回の生徒指導会議を開催し、生徒の情報を共有し職員の間で理解を深め、一人ひとりの生徒に対応した段階的な指導を実施します。挨拶・身だしなみ・遅刻指導を中心に毎朝校門指導を実施し、改善が必要な生徒にはその場で指導します。 また、特別支援及び教育相談会の会議を定例化し生徒の情報を共有するとともに、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に問題を抱えた生徒を支援する体制を強化します。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていますか。	⑦ 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていると認識している生徒が80%以上である。	面談や学校生活に関するアンケートから、いじめの早期発見に向けて組織的に取り組みます。
	8 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 1学年出勤者が生徒数の40%以上である。	家庭との連携を密にし、基本的生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。
	9 充実した部活動が行われていますか。	⑨ 部活動に参加している生徒が80%以上、その活動に満足している生徒が80%以上である。	部活動の一層の活性化を図り、生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面をより多く設定します。
	10 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 就職希望者の90%以上が年末までに採用内定する。進学希望者については、十分な学校研究を行わせ、出願した大学等に全員合格する。	1年生の入学段階より3年間を通して系統的な進路行事などを計画し、生徒の進路実現をサポートします。 また、教職員による企業等訪問の実施や、大学・看護系進学希望者には進路対策の補講等を実施します。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪ 進路の手引きや進路だよりなどの学校からの進路に関する配布物に目を遣っている生徒や保護者が80%以上である。	就職や進学に関する最新の状況、学校での進路行事の様子などの適切な資料を進路だよりとして保護者会などで提供します。また、進路に関して関心のあることをアンケートで調査して提供資料に反映させます。
	12 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	総合的な探究の時間やキャリアパスポートへの記録、HR活動を通して、「自分の在り方・生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考える機会を設定し進路に対する意識の高揚を図ります。 また、企業見学や学校見学を有効なものとするために、見学のための事前指導を行うとともに、母学のポータルサイトやウェブサイトなどを提供し、外部講師による進路セミナー等を実施し、進路意識の高揚を図ります。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	13 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校の情報発信に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	学校だよりやホームページ、オフレクチャーなどにより、生徒の活躍や学習活動の情報を保護者や地域に発信していきます。
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑭ ICTが業務に有効であると感じる職員が80%以上である。	授業や日常の学習活動の中で、ICTを適切に活用していきます。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑭ ICTが業務に有効であると感じる職員が80%以上である。	日常の業務の中で、ICTを使用することで効果的な業務ができるようになっています。
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ ICTが業務に有効であると感じる職員が80%以上である。	

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
A	A	自分の学校が好きだと答えている生徒が92.4%であり、具体的数値目標の80%に達しています。新型コロナウイルス感染症の影響等で、登校できない生徒に対しても、オンライン授業を実施し、学ぶ意欲や学校生活への充足感を得ているのではないかと考えられます。	A	A	自分の学校が好きだと答えている生徒が第2回アンケートでは94.3%であり、具体的数値目標の80%に達しています。アンケートに対する自由として、「先生との関係が良好」という回答が伸びました。コロナ感染予防をとりつつ、様々な学校行事を実施できるようになった結果だと思えます。
A	A	新型コロナウイルス感染症対策により、様々な行事が中止や規模を縮小したもとなっており、行事の代替案などを検討し、生徒の学ぶ意欲の向上を目指しています。	A	A	コロナ感染予防をとりつつ、校外学習や地域との交流活動が実施できるようになった結果だと思えます。今後も感染対策を徹底しつつ、地域貢献していきます。
B	B	新型コロナウイルス感染症対策により、今年度は夏期休業中に希望生徒による短期インターンシップの実施となりました。今後も関係企業等と情報交換を図りながら可能な範囲で生徒の活躍を支援できる場面を検討します。	A	A	地域社会との連携や出前授業、インターンシップ等に関心のある生徒は89.9%でした。地元企業や外部講師などによる進路セミナーは生徒の進路意識向上及び進路選択に効果を与えています。今後もコロナ禍後の状況を把握しながら、柔軟な運営・対応が出来るよう取り組んでいきます。
A	A	新型コロナウイルス感染症の影響等で、登校できない生徒に対しても、オンライン授業を実施している。引き続き生徒が授業で学ぶ喜びを感じられるようにきめ細かい指導を続けます。	A	A	生徒はChromeBookを用いて、授業の進路やレポート提出などで活用しています。さらに生徒が出席停止になった場合でも、個別にChromeBookを用いて連絡し、生徒が不安にならないよう適切に支援しています。
B	A	D3ゼミを計画的に実施することで、生徒の学習意欲の向上に熱心に取り組んでいる。テスト1週間前から計画的に勉強に取り組んでいる生徒をもっと増やそう、引き続き、組織力に生徒の学習意欲の向上を目指します。	A	A	基礎力診断テスト結果を活用した表彰や成績への反映、D3ゼミ等の実施に伴い、前向きに取り組む生徒が増えた。保護者アンケートからも1週間前から取り組んでいると約66%が回答をいただいた。保護者の目にも映るようになり、今後も家庭学習の習慣化を目指します。
A	A	問題行動で指導される生徒は減少傾向にあります。学年会議・生徒指導会議等で生徒の情報共有を行い、問題行動の未然防止策を検討し、実施します。 現時点では、昨年度と比較して不登校および退学者は減少傾向にあります。教育相談会の会議を月1回実施し生徒情報の共有をしています。また、特別支援が必要な生徒には個別の指導計画を作成し、実施します。	A	A	本年度も学校生活の五箇条を生活目標に継続的な指導を行いました。学年会議、生活指導会議、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、生徒の情報交換を行うことで、問題行動で指導される生徒は減少傾向にあり、生徒は落ち着いている状況です。来年度も定期的な生徒の情報交換を行い、小さな変化を捉え、問題行動の未然防止に努めていきたいと思います。また、特別な支援が必要な生徒には、教育相談や関係機関と連携を図って対応していきたい。
B	A	いじめの早期発見のため、クラスでの面談をはじめ、学校生活アンケートを2カ月に1度実施、教育相談係との連携、いじめ防止対策委員会を実施します。	A	A	学校生活アンケートを2カ月に1度実施し、いじめの早期発見に努め、いじめが発生した場合にはいじめ防止対策委員会を行い、教育相談や関係機関と連携を図るなどして解決に導いていきたい。
A	B	現時点では、登校時の遅刻をする生徒は少ない状況です。家庭との連携を密にし、基本的生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。	B	A	欠席率は県内でも低く、欠席や遅刻をする生徒は少ない状況です。しかし、新型コロナウイルスの影響により、家庭学習をした期間もあることから、今後も家庭と連携して基本的生活習慣の確立を図りたい。
B	A	校内掲示板で各部活動のポスターを掲示し、部員の増加に努めました。新型コロナウイルスの影響等で活動が制限されていますが、職員が部活指導しやすい体制づくりに努めます。	B	B	新型コロナウイルスの影響により、活動の制限もありました。今後は部活動に参加する生徒を増やすために、ポスターや部活動紹介をして、活発な活動になるようにしたい。
A	A	進路に関する配布物に満足されている保護者の割合が92.6%でした。PTA総会や保護者会で進路講話を実施し本校の進路状況等について情報提供しました。又、「進路の手引き」や「進路だより」を発行しました。直接配布できない場合は生徒を通じて配布しています。	A	A	今後も、1年生の段階から進路決定する3年生の各段階で、体系的な計画立案を行い、又、職員による企業訪問を継続し、情報収集及び発信を継続して行います。 公務員や医療系、大学進学を希望する生徒への早期情報提供を行い、外部模試や対策セミナー等の活用を図ります。
A	A	進路実現に向けて取り組んでいる生徒は85.6%、進路セミナーを通じて進路意識が高まった生徒は95.9%である。 各学年毎に計画した進路ガイダンスやセミナーを開催している。キャリアパスポートへの記録、進路学習や各種進路情報の提供を通して進路意識の向上を図ります。 又、キャリアパスポートへの記録、進路学習や各種進路情報の提供を通して支援を行ってきたい。	A	A	進路実現に向けて取り組んでいる生徒は89.5%、進路セミナーを通じて進路意識が高まった生徒は94.7%でした。 今後も、キャリアパスポートへの記録、進路学習や各種進路情報の提供を通して進路意識の向上を図ります。 又、キャリアパスポートへの記録、進路学習や各種進路情報の提供を通して支援を行ってきたい。
B	A	新型コロナウイルス感染症防止の対策を講じながらも、一昨年および昨年度よりも、学校行事、生徒活動、地域との連携等々コロナ前より近い状況へと移行しつつある中で、その活動にも遅れることなく、情報発信を積極的に行う必要がある。	A	A	完全にコロナ前のような活動は無理であるが、着実に活動が戻り、次年度においては、遅れない活動、発信ができる状況であり、今後は大いに期待したい。 生徒との活動も、より積極的になるであろう。期待は大きい。
B	A	生徒たちはChromeBookに使い慣れてきたが、学習活動以外の活用が立っていない。	A	A	保護者、生徒とも、ほぼICTに関する理解、その有効性について認識している。引き続き有効活用をすすめていきたい。
B	A	出席停止の生徒に対してオンライン授業が取り入れられてはいるが、まだまだ納得できる効果的なものではない。	A	A	オンライン授業に対して、さらなる効果的な授業改善をすすめます。